

子育て世代の応援を

町長

町単独拡充は考えない



◆ 水谷久美子 議員

国は、10月から「幼児教育・保育の無償化」を掲げるが、給食費は自己負担となり（副食費を含む）、完全無償化ではない。財源も逆進性の消費税に求め次年度からは、町立園は全額町の負担となる。

問 10月からの無償化は、国基準の算定額が予算措置されるため、町独自の軽減措置分が浮く。この予算で町単独の完全無償化を実現したい。

問 秋田県では低所得者層対策を6月議会補正で対応しているが、岐阜県の動向は。

答 園長・主任会を中心に事務量削減や会議の短縮等に取り組んでいる。

問 保育士が働き続けられる環境整備や待遇改善を。

答 県に確認したところ、「現段階で示す内容はない」との回答。

答 配慮が必要な世帯は、国の減免があり、これ以上の拡充は考えていない。国の方針に基づき副食代（おかず）を徴収する。



元気に遊ぶ子ども達

通学路ブロック塀補助要綱見直しを

町長

補助金を見直す考えはない

国は、2018年度の第2次補正から「ブロック塀安全対策事業」として独自の基幹事業に位置付け交付の限度額を改善させた。

問 国は、この事業に交付率を国・地方・民間で三分の一ずつと改善させた。町の交付額は、国の改善を反映したものか。

答 標準的なブロック塀解体・フェンス建て替えとしてメートル当たり2万2500円の想定で上限額15万円とした。

問 申請に至らないのは、補助金額が実態にそぐわないことであり、再考を求める。

答 県内42市町村の内、32市町村がこの事業に補助金交付しており、メートル当たりも1万円で上限額10万円が大半である。

問 災害避難路に面しているブロック塀の耐震診断は。

答 検討したい。

大型インフラの進捗状況は

町長

新食肉基幹市場は協議が進まず

町内で進行中の事業について進捗状況を問う。

問 新食肉基幹市場の進捗と場所は。

答 豚コレラが終息しないため協議が進まない。未だ候補地選定に至らず。

問 豚コレラへの対策は。

答 昨年12月に「食肉事業センターバイオセキュリティ要件」を策定。

問 通称ジャンプ台の建設が再開すると聞いたが展望は。

答 橋爪大橋完成後の交通も考慮し、スマートICの利便性向上を図っていく。

答 優先されていた養老平田線の整備に目処がついたため、今後は大垣養老公園線の整備が進む見通し。

問 （仮称）橋爪大橋の進捗と開通の時期は。

答 開通目標は公表されていないが早期完成に向け要望を行っている。

問 養老スマートICの周辺整備は。

答 橋爪大橋完成後の交通も考慮し、スマートICの利便性向上を図っていく。



通称ジャンプ台（飯ノ木地内）

(続) 3セク会社の実態は

町長

まだ本格営業していない

最近の調査で、平成28年に視察した際に紹介された、3セク会社の事務所が現在には存在していない疑惑が判明した。

問 あったはずの事務所が見当たらないが。

答 3セク会社がある民間施設内の別の場所に変わった。所在地に変更はない。

問 連絡を取ろうとしたが以前あったはずの電話がなくなっているが。

答 建物、電話共に民間施設と共有して使用している。

問 新年度の年間事業計画は。

答 民間施設の事業と並行して進めているので、近い将来全貌を報告すると説明されている。

問 年間事業計画もないような3セク会社に町はなぜ出資しているのか。

答 会社の事業計画は定款に明記されていて変更はない。

問 この会社は書類上だけの存在で、いわゆるペーパー会社ではないのか。

答 まだ本格営業していない。

ほかに「パワハラ訴訟について」の質問もしました。